

1982年
統一劇場作品

ミュージカル

海から来たモグラ

プロローグと二幕七場



出発進行！ランプ確認！

人生ふとしたことですべての夢がくずれ去る時がある

この世の闇に手さぐりで自分のレールを敷こうとする人間たちの

哀しくておかしな物語

(スタッフ)

作 林 操

演出 田中のおる

音楽 岡田 京子

振付 石橋寿恵子

装置 園 良昭

効果 丸山 昌彦

企画制作 交吉 俊郎

(キャスト)

斉藤 謙一 角江 忠志

如 理恵 たつの素子

如 桐子 石毛佳世子

佐々木敏雄 宮沢 和秀

一戸 弘 川村 孝行

佐々木三郎 高室 成幸

花子 甫木元志津

スナックママ 貞子 平川 孝子

楽器演奏 口山 進

岩沢真理子

戸沢美砂子

山田 美穂

7月7日(水) 淡路市児童会館 開場 6:00
一般 2000円 学生 1500円 開演 6:30
(当日2300円 当日 1800円)

後援 淡路市教育委員会

TEL 0534 56-8594
輪をむす484角の会 56-8594

船は星をみて走る・親は子供をみて生きる…俺は何を見て生きるのか。



三郎
高室成幸



弘
川村孝行



敏雄
宮沢和秀



桐子
石毛佳世子



理恵
たつの素子



斉藤
角江忠志



作者
林 操



楽器演奏
戸沢美砂子



楽器演奏
岩沢真理子



楽器演奏
口山 進



貞子
平川孝子



花子
南木元志洋

（あらすじ） 高層ビルが目前にそびえる新宿の小さな公園入口で、地下鉄運転手・斉藤謙一は佐々木敏雄一戸弘、佐々木三郎それに花子が乗っている車に追突。そのショックで三郎は記憶喪失になってしまったらしい。「おっさん！酒飲んでるな！おまけに若葉ちゃんマークなんぞつけちゃって！いーけーないんだ！」

四年前、故郷の津軽をどび出して以来、木更津の大日本製鉄所の下請け会社でベルトコンベアにふりまわされる面白くもない毎日、とうとう嫌気がさしてこの日、無一文でトンズラしたばかりの彼らにとってはこの事故はもっつけの幸い、修理代、休業保障、三郎の入院費用など五百万円を斉藤に要求した。

斉藤謙一にはささやかな夢があった。あと五年で迎える定年後は、美容院を細々とやっている畑桐子と一緒にのんびりと暮らすことである。つい最近、貯金と退職金をあてにしてローンを3LDKのマンションを購入したばかりである。だから五百万もの大金など出せるわけがないのだ。桐子は美容院の改築資金にと必死に貯めた三百万円を使ってくれと云う。

「地下鉄やめれば退職金があるでしょ！わたしは知らない！」一人娘の理恵は斉藤に冷たかった。10年前に女房の初子が死んでからは、地下鉄の変則勤務時間もあって理恵とは共に暮していながらめったに顔を合せず、その上、最近桐子とのことで理恵は極端に態度を硬化させている。理恵の心に今もお母親の思い出が強く残っているのを感じるにつけ、桐子は無理して斉藤と一緒にいられなくてもいいと云う。

斉藤は目の前がまっくらになり、呆然となる。

ところがである。金を渡す約束の日、理恵が二百万円を若者たちにさし出し、足りない分は自分が働いてきつと返すから……と涙ながら頼む姿を見て、斉藤も桐子も胸をうたれてしまう。

「ちやちなメロドラマなんぞ見せねえで、早く金を渡

してくれよ！」とうそぶいていた若者たちに混乱がおりはじめる。

頭にまいていたホータイを投げ捨てて、「もうこんな番劇はいやだ！」と三郎、弘、そんなきたないお金では母さんよるこばないよ」と泣く花子、「エへへへ、ドッラケ……」と敏雄。怒る桐子や理恵。

いつの間にか斉藤の姿が消えていた……。埋めたてられ、大目鉄の工場群が林立する岸壁に一人たたづんでいる斉藤。燃えつづける溶鉱炉の火……。こは斉藤の生れ故郷の木更津の海である。「親父よ、ここに来ちまった……今になって親父の持がよく……地下鉄やめちまった……」

昔は、こんな工場群はなく遠浅のきれいな海だった。すぐ沖にはてぐり船がバアーと白い帆をあげ、その向に富士山の姿がよく見えていた海。

この海で、斉藤と若者たちの世代の対立と葛藤。父桐子と母の意外な過去を知ることになる理恵……。それぞれの想いをうつつしてドラマは展開していく。

人生には

・モグラのエレジー 詞・林 操 曲・岡田京子

モグラは いっぴりて わるいことば してはいない
 ニジミが うまぬらば ぬかちちうーは ひとつしにー
 せいにま しらぬやに ちかどうーのー けたすかみで

なかに とうしてあ たらとまて けあをぬかせら
 エサを ころしてあ たらとまて けあをぬかせら
 足かき 一ま一ま あ わーるのさ ぼけんなんてあ

かほいのめ せとせにぬかちちに しぬことだつてあ る
 けいのほか けいのほか けいのほか
 せめてあたらとま せとせにぬかちちに あいぬかちちに いいのこし

ふとしたこと
 すべての夢が
 くづれさるこ
 がある
 陽がのぼる朝
 口ずさむ歌も
 びく
 ビルの谷間に
 足音も重い
 けれど明日に
 きてみよう
 楽じゃないけ
 ふとしたこと
 明日につながる